

子どもの未来応援団報告書

表題： 東箕輪の民話を伝えよう

学校・団体名： 箕輪東小学校 4年

活動グループ名： にじいろ劇団

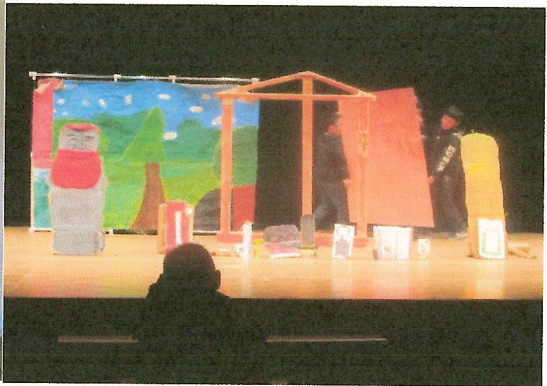
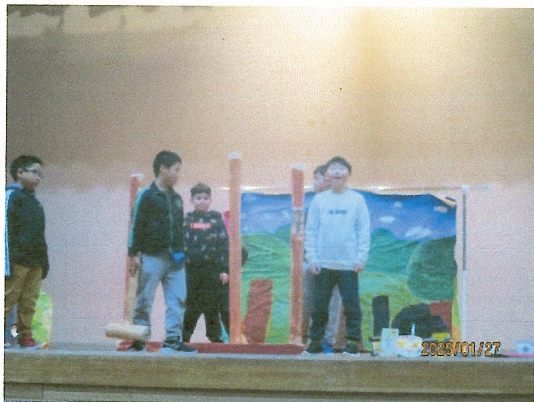
担当者・教諭名： 三村百絵

活動人数： 22名

(1) 活動を始めた理由

3年生の総合学習のスタートにあたって、子どもたちの得意なこと（音読・音楽・工作）を活かせそうな劇をやってみない？と担任が提案した。最初は、国語の教科書の題材を劇にして、保育園の子どもたちに披露した。その後、次の題材を何にしようか考え、箕輪町博物館から資料を借りて、東箕輪に伝わる民話を調べた。たくさんの民話があることが分かったが、どれを劇にしようか悩んだ。子どもたちは、地域に出掛け、一軒一軒周り、実際に伝わっている民話は何なのか、調査をした。学区の3地区にそれぞれ伝わっている民話が違うということが分かった。また、民話を知っている人はいたが、その人数は少なく、多くの人が民話を知らなかった。自分たちが劇にして、たくさんの地域の方へ伝えたいという思いをもち活動を進めた。

(2) 活動内容・活動の写真（カラー）



(3) 活動結果

学区の3地区の民話を全員で一つずつ劇にしていこうという計画で、昨年度から取り組んできました。最初に取り組んだ劇が南小河内の「戸矢の坂のきつね」です。最初は劇作りが楽しく、段ボールや学校にある画用紙をつかって工夫しながら道具をつくったり、自分たちが持っている絵の具を使ったりして背景を描きました。今年6月に、初めて公民館で劇を披露した際には、自分たちの劇に地域の方が笑って楽しんでくれたことが嬉しく、自分たちが地域の方々から期待されていることに気付きました。公民館での公演をきっかけにクラスの多くの子どもたちが、もっといい劇にしたいという気持ちをもつことができました。

次の公演は、北小河内の「漆戸右門の蛇退治」です。場面転換の背景を描く際に、遠くの人からも見えるように、薄い色じゃなく、濃い色で塗っていきたいと子どもたちから提案がありました。支援していただいたお金で絵の具を購入させていただきました。納得のいくまで塗り重ね、会場の後ろからでもよく見える絵が完成しました。また、大蛇を倒すことや、漁に出掛けるシーンなど、場面転換を工夫しなければならないお話でした。ハンガーラックと暗幕で舞台袖をつくり、ステージ上、ステージ下とどちらでも演じられるように、舞台に立体感を出しました。工夫を重ねながら、劇を完成させることができました。しかし、うまくいかない場面もあり、準備をしっかりとって臨みたいと子どもたちは意欲をもちました。

次の公演は、長岡の「十沢の地蔵」です。このお話は、お寺を壊し、寺と地蔵を引っ越ししなければならないという時に、地蔵が重くなり、地蔵はこの長岡の地に残ると決まったというあらすじです。お寺を壊すシーンをつくるには、段ボール工作では限界がありました。道具作り担当の子は、「寺を壊すから、分解ができるように作っておいて、それを組み合わせてステージに置きたい」と提案しました。「段ボールじゃ無理だし、壊しているシーンだから、木材を使って、柱とかを見せたい」と考えました。支援していただいたお金で木材を購入させていただき、立体感のある大道具を完成させることができました。公演を見た地域の方からも「立派な道具だった」と感想をいただきました。公演を重ねるたびに、子どもたちは、演技はもちろん、道具もよいものをつくりたいという意欲をも

ちました。

最後は、3月に箕輪町文化ホールにて3つの劇すべてを公演しました。300名を超えるお客さんが集まってくださり、大盛況で民話劇の公演を終えることができました。

支援していただいたおかげで、様々な材料を購入することができ、子どもたちが工夫をしながら活動することができました。道具や背景など、よいものをつくろうという気持ちにもつながり、公民館での公演を重ねていくことができました。最後は大変多くのお客さんが観劇していただき、「民話を伝える」という目標を達成することができました。子どもたちは活動をやり切ったという気持ちになれました。この活動を通して、クラスの間も高まりました。仕事を分担すること、ステージ上でフォローをし合うこと、友だちへ気持ちを向けることができました。また、お金を支援していただいていることや、地区長さんなど地域の方に支えていただいていたこの活動ができたことにも気づき、地域の方々へ向ける気持ちも大きくなりました。